

愛知県資源管理協議会による取組の効果の検証結果（一覧）

協定名	検証結果	対象資源（注1）	備考
愛知県三河湾における底魚資源に関する日間賀島漁協小型機船底びき網（まめ板網）漁業の資源管理協定	「取組の効果があり継続する」	○トラフグ伊勢・三河湾系群	【別紙】
		○マアナゴ伊勢・三河湾	【別紙】 （注2）

（注1） ●：特定水産資源、○：特定水産資源以外の水産資源

（注2） 想定外の外部要因により効果は判定できないと判定された資源

○愛知県三河湾における底魚資源に関する日間賀島漁協小型機船底びき網（まめ板網）漁業の資源管理協定

	とらふぐ (伊勢・三河湾系群)	まあなご (伊勢・三河湾)
資源管理の目標を達成している又は資源量の増大がみられる等資源管理の目標の達成が見込めるため、取組の効果がであると認められるか	最新の資源評価結果によれば、令和6年の親魚量（95トン）は、目標管理基準値案（84トン）を達成しており、漁獲圧もMSY水準の基準値を下回っていることから、 <u>取組の効果がであると認められる。</u>	最新の資源評価結果では、資源量指標値（小型機船底びき網によるマアナゴの標準化CPUE）から、水準・動向を判断すると、資源は低位水準で減少傾向にあると判断される。 しかし、延べ出漁隻数は過去最低で、網目も大型魚狙いに拡大し、漁獲圧は低く維持されている。さらに、10月以降の小型魚の保護も徹底されている。 資源評価では、2015年以降、湾外から湾内への仔魚の来遊が低水準である可能性、内湾環境の悪化が来遊後のマアナゴの生残に悪影響を与えていることを指摘しており、漁獲圧以外の資源減少要因が考えられたため、 <u>「想定外の外部要因により効果は判定できない」</u> と判定した。
取組内容や資源管理の目標について、継続が妥当と認められるか	①取組内容（毎週2日以上休漁を実施）に対し、期間中（108週）の5隻の1週あたりの平均休漁日数は、4.4日であり、著しい乖離があるとは言えず、休漁に加えて小型魚保護にも取り組んでおり、目標管理基準値も達成していることから、 <u>取組内容の継続が妥当と認められる。</u> ②取組の目標（親魚量を、令和10年までに、国の資源評価で示された目標管理基準値案（84トン）に回復させること）は、愛知県資源管理方針に基づいており、 <u>継続が妥当と認められる。</u>	①取組内容（毎週2日以上休漁を実施）に対し、期間中（108週）の5隻の1週あたりの平均休漁日数は、4.4日であり、著しい乖離があるとは言えず、休漁に加えて大型魚を対象とした操業を行うことで漁獲圧を下げ、資源評価でも有効と記載されている秋冬漁期の小型魚の保護や再放流に取り組んでいることから、 <u>取組内容の継続が妥当と認められる。</u> ②取組の目標（国が行う資源評価において判断される資源水準を、令和10年までに、中位以上に回復させること）は、愛知県資源管理方針に基づいており、 <u>継続が妥当と認められる。</u>
判定	「取組の効果が有り継続する」	「想定外の外部要因により効果は判定できない」